

# Society5.0 時代を見据えた 教科学習と教科等横断的な学習の在り方

上智大学 奈須正裕



## 総合的な学習の時間に期待され、 あるいは達成されてきた多様な教育的価値

- ▶ 在来の教科ではカバー仕切れない、様々な教育の場となる  
ESD・SDG's、シチズンシップ(市民・主権者)教育、キャリア教育、食育、  
防災教育、情報教育、健康教育・・・
- ▶ 教科で身に付けた資質・能力を実社会の問題に適用する経験を通して、  
①教科学習の価値を実感する  
②生活を科学化する意義や価値、課題や限界に気付く
- ▶ 「探究」や「協働」を通して、様々な認知的・非認知的能力を育成する
- ▶ 答えが一つに定まらない問題への取り組みを通して、教科とは異なる知識観・学習観・マインドセット等のメタ学習をもたらす
- ▶ 自尊心・自己有能感の向上に寄与する
- ▶ 自己の生き方(doing)を問い、さらに在り方(being)を深める
- ▶ 地域との関わりを深め、地域社会の一員としての自覚を深めると共に、  
地域創生の契機をもたらす

## 「総合」的な学びの2つの側面

- ▶ 内容的な側面: **総合的な学習(探究)の時間**
- ▶ 従来の教科では適切に取り扱えない教育内容
  - 1) いつの時代、どの社会でも必要な生活の教育
  - 2) 社会の変化、科学・学問・芸術の学際化に伴って要請される資質・能力の教育
- ▶ 方法的な側面: **合科的・関連的な指導、教科等横断的なカリキュラム・マネジメント、知の総合化**
- ▶ 教科の枠を越境する学び、実生活・実社会と関連付いた学び
  - 1) 経験主義の学習観、脳科学や認知科学(構成主義)の知見
  - 2) 時代が求める知識の質の変化
    - ① 要素的な知識の相対的価値の低下
    - ② 精緻化(elaboration)された知識、自在に「活用」の効く知識、イノベーションをもたらす知識の重視

# イギリスにおける総合学習の変遷

- ▶ 経験主義的伝統と、SBCD(学校を基盤としたカリキュラム開発)の理念に立脚した教科等横断的なカリキュラム・マネジメント(トピック学習など)が盛んに実践されていた
- ▶ サッチャー改革(1988年):教科中心で過密なナショナル・カリキュラムの創設により、トピック学習が衰退
- ▶ ナショナル・カリキュラムの大幅な量的削減と、PSHE(Personal, Social and Health Education)の創設
- ▶ PSHEを「のりしろ」に、各学校が創意工夫することでトピック学習が復活
  
- ▶ 学ぶべきこと:
  - ①「方法」的な側面としての「総合」の充実
  - ②そのためには独自の「内容」領域が必要
  - ③独自の「内容」領域は、カリキュラム・マネジメントの核となりうる自由度を持つことが大切

## 学科課程

科学・学問・芸術の教育

国語

算数・数学

理科 理数

社会(地歴・公民)

音楽

図工・美術

(保健)体育

(技術)家庭

外国語(英語)・外国語活動

情報

## 生活課程

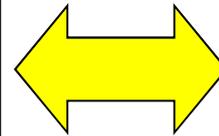
生活の教育

生活科

総合的な学習(探究)の時間

道徳

特別活動



知の総合化

日本の学校における教育内容の構造

# Society5.0 時代を見据えた 教科学習と教科等横断的な学習の在り方

- ▶ 生活の教育を中心として、固有な内容的特質を持ち、且つ自由度の高い総合的な学習(探究)の時間をいっそう充実させる
- ▶ 合科的・関連的な指導、教科等横断的なカリキュラム・マネジメント、知の総合化の趣旨を存分に活かし、各学校において教育方法的な側面における「総合」を推進する
- ▶ 各教科においては、それぞれの「見方・考え方」を大切にすることで、その教科ならではの系統を保持した「深い学び」を目指す
- ▶ 総合的な学習(探究)の時間においては、「探究的な見方・考え方」(各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けること)を大切にすることで、教科学習の成果を、教科横断的な学習の中で豊かに花開かせることを目指す